



すこやか

苅田町青少年育成町民会議だより

「家庭の日」「オアシス運動」入選者展示



「みんな一生懸命」



「木工教室」 子どもフェスティバル



「木工教室」

子どもフェスティバル



苅田町青少年育成町民会議では、子どもフェスティバルにて昨年に引き続き、「もみじ学舎」の協力を得、「木工教室」を開催しました。

会場のあちらこちらでは、いろいろな工夫が飛び交っていました。

出来上がった作品は、愛着もひとしお。皆さん大事そうに持ち帰っていました。

「親子でどんなものができるかな?」



「大人が変われば、子どもも変わる」
まず、大人ができることからはじめましょう。

11月は全国青少年健全育成強調月間

全ての青少年の健やかな成長を願って…。



↑与原小学校校門にて



↑苅田中学校付近にて

苅田町青少年育成町民会議では、10月16日と23日に「いじめ防止強調月間」の一環として、児童・生徒の登校時間に朝の声かけ運動を実施しました。

登校してくる子どもたちからとても大きな声で「おはようございます」と言われ、あわてて私たちもいさつを返す場面もあり、とても心地よい一日のはじまりでした。

朝の声かけ運動

青少年健全育成講演会開催される

- 日 時 平成19年9月15日(土)
- 場 所 町立中央公民館第5研修室
- 講 師 元大野城市子ども相談センター相談員 楠橋照子先生
- 演 題 『子どもを非行にはしらせないため…心のサインを見落とさないように…』



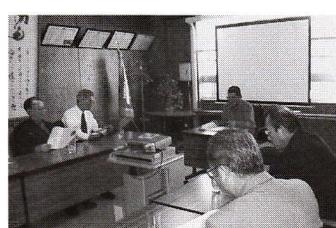
当日は連休初日の土曜日にも関わらず、学校・PTAなど多くの方々のご参加をいただき、講演会を開催いたしました。

公演内容は、若年層の犯罪の多発など、現代社会を反映しての家庭教育のあり方、そして家庭・地域で子どもたちを守るため家庭・学校・地域住民・関係団体などの連携がより一層重要になってくるといったことを主なテーマとし、多くの実例を交えご講演を頂きました。当日大変お忙しい中、ご参加を頂いた皆様、ありがとうございました。



苅田町青少年育成町民会議補導環境部会(原田雄幸会長)は、10月12日宮崎県糸原にある「宮崎刑務所」を訪ね、同所の庶務課長より施設の沿革や受刑者の処遇、特に矯正作業についてくわしくお話を伺いました。

宮崎刑務所は明治6年宮崎郡大島村に「懲治場」として開設され、大正11年には現在の宮崎刑務所と改称、昭和46年宮崎市内から都市化に伴い現在地に移転されています。現在受刑者は主に26歳以上8年未満の比較的の犯罪傾向の進んだ者が収容されています。



今回、私も始めて沿場や調理場を見学しましたが、清潔に整理整頓されており、これは、何れの刑務所の施設でも同様でしたが、我が国の「矯正制度」が

高く維持されていると印象を持ち、有意義な研修を行なうことができました。

補導環境部会視察研修

未決施設と合わせて550人が収容されており、暴力団及び薬物事犯が多いとのことで改善構成及び社会復帰を図る矯正施設ですが、平成18年5月に改正された新法により從来の作業中心から教育指導に重点をおいた処遇がなされるようになりました。

刑務所等の「刑事施設」は

刑の執行を通じて、受刑者の改善構成及び社会復帰を図る矯正施設ですが、平成18年5月に改正された新法により從来の作業中心から教育指導に重点をおいた処遇がなされるようになりました。

～放課後児童クラブにて～ その1

「馬場キッズ館」の子どもたちに会ってきました。



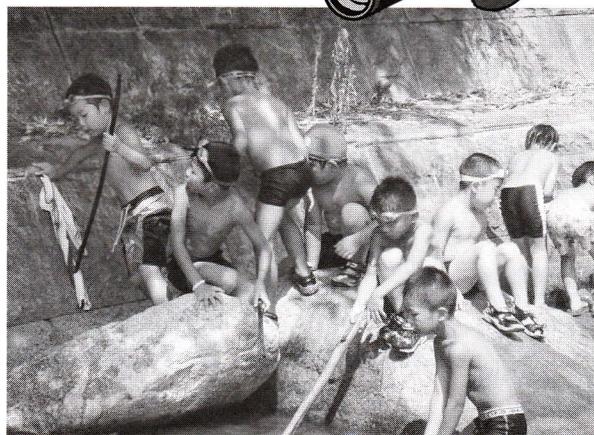
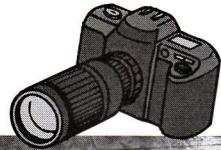
- そこに行けば誰かと遊べる
安心感があります。



いろんな体験ができるよ。

友達の輪がひろがるよ。

ズームイン!!



- 同学年の遊びとは、
違うおもしろさがあります。

夏休み、みんなでキャンプに行きました。
←

今年4月から馬場小学校の校舎横に学童保育がスタートしました。

- ・馬場キッズの子は、虫が大好きです。
(バッタ、トカゲ、カエル etc.)
- ・毎日、子どもたちが帰った後、
逃がしています。
- ・外遊びが大好きな元気な子どもたち
です。



バア～バアの一言 No.5

「子」と「親」の役割

子どもたちの未来は、子どもたちのものです。
たとえ母親から生まれていても…。

子どもたちは、育てられた環境の中や様々な体験を通して、
自分の生き方を見つけていきます。それらを支援していくのは、
親であり、社会の役割であると思います。

幼い頃は、子どもたちがした事は、親が背負いますが、最近、
親の責任を子どもたちに背負わせていたりして「あらっ?」と
思うことがあります。学校に行かないのは、子どもたちが
悪いと決めてしまうことではなく、行くように環境を整えてやる
のが親の責任ではないでしょうか。子どもたちに自分のした事
の善悪の正しい認識を家庭教育としてしっかり導いて欲しいも
のです。

子どもたちが知らない事はできません。やったことのない事
は知りません。だから体験を通して、学習し、基礎学力を身に
つけます。教育は、将来子どもたちが社会の成人として成長し
ていくために必要な学力を教え、育てるものです。自分のアイ
デンティティを見つけるための手段であると思います。

親は、子どもたちの育ちを近くで日々しっかりと見守り、先
人として導くことを認識して欲しいものです。

明日の事を考えて行動するのは、大人。あまり深く考えない
で遊ぶのが子どもたちであるのかなあ～と最近は思います。

子どもたちが「お母さん！」と声かけをしたら、すぐに応じ
て話を聞きましょう。次は無いものと思うことが大切です。



「苅田町非行防止推進
協議会」が発足して早、
1年2ヶ月たちました。
子どもたちはもとより、
保護者や地域住民への
自主防犯抑止の啓発運
動として、効果が現わ
れたことが大きな成果
と感じています。

写真是、馬場小
校の通学区域を巡回
中の時、頭を下げ、
「あいさつ」し、手を
振つて来た子どもた
ちです。
青パトは、子ども
たちの安全をいつも
見守り、貢献してい
ます。

『見守り活動の広がりと効果』

青色パトロールカーを前にして



ソーラーカー工作教室



苅田工業高校主催のソーラーカー工作教室が苅田自動車学校で行われました。

10名ほどの中学生が参加し、苅田工業高校の生徒に指導してもらいながらソーラーカーの模型を完成させることができました。

完成後に、太陽の光を当てるなど自分たちの組み立てたソーラーカーが走り出し中学生たちは驚いた様子で、ソーラーカーの仕組みを説明してくれる高校生の話を熱心に聞いていました。



職場体験学習

10月3～5日の3日間職場体験学習を行いました。苅田町内外の50カ所以上の事業所の協力を得て、中学生たちは普段の学校生活ではあじわえない貴重な体験をすることができました。

この職場体験学習を通して生徒達は働くことの大切さと大変さを学ぶことができました。



